

○業務状況

	総数	1日平均
入院患者数	39,272人	107.6人
外来患者数	50,009人	206.6人
休日・夜間の救急患者数	1,298人	3.6人
訪問診療患者数(介護保険)	1,274人	

○収益的収入及び支出(経営の会計)

項目	決算額
事業収益	12億3,176万8千円
事業外収益	2億7,838万3千円
特別利益	5万1千円
合計	15億1,020万2千円
事業費用	15億5,572万1千円
事業外費用	1,083万7千円
特別損失	0円
合計	15億6,655万8千円
純利益	5,635万6千円

○資本的収入及び支出(施設・設備整備の会計)

項目	決算額
収入	1億9,118万1千円
出資金	1,410万円
企業債	2億528万1千円
合計	2億528万1千円
支出	9,406万4千円
建設改良費	9,406万4千円
企業債償還金	9,515万1千円
合計	1億8,921万5千円

○患者の地域別割合

	志津川地区	歌津地区	登米市	その他
入院患者	72.9%	18.6%	1.3%	7.2%
外来患者	78.8%	15.8%	1.8%	3.6%

○内部留保(流動資産-流動負債)等の状況

	平成6年度末	平成18年度末	平成19年度末	平成21年度末
内部留保	▲10億1,168万1千円	▲9,636万4千円	822万8千円	2,218万3千円
一時借入金	10億8,000万円	3億5,000万円	2億円	2億5,000万円

※▲は不良債務(21年度末の内部留保額は、建設改良費翌年度繰越額1,606万5千円を除く)

○訪問看護ステーション業務状況

年度末利用登録者数	113人
延訪問回数	6,439回
1人あたり月平均利用回数	6.5回

○訪問看護ステーション決算状況

項目	決算額
事業収益	4,915万7千円
事業外収益	2万8千円
特別利益	3万5千円
合計	4,922万円
事業費用	4,551万9千円
事業外費用	0円
特別損失	0円
合計	4,551万9千円
純利益	370万1千円

○患者の地域別割合

志津川地区	歌津地区	その他
77.2%	20.0%	2.8%

○利益剰余金

利益積立金	500万5千円
繰越利益剰余金	1,581万6千円
合計	2,082万1千円

患者数は大幅減、一般会計からの繰入金を見直し内部留保を確保

平成21年度は、病院改革プランに基づき経営の効率化を図るために一般会計からの繰入金の見直しを図ると共に病床数の適正化として一般病床を90床から76床へ減床しましたが、内科医師の退職等により、年間の入院患者数は3万9,272人で8%の減、外来患者数は5万9人で10.4%の減と、前年度と比べ大幅な減少となりました。

収益的収入(経営の会計)においては、病院事業収益が15億1,020万2千円、病院事業費用が15億5,572万1千円、純利益が5,635万6千円と、3.8%の減、病院事業費用

が15億6,655万8千円、655万8千円で3%の減、差し引き5,635万6千円の純損失となりました。

資本的収入(施設・設備整備の会計)においては、建設改良事業として超音波診断装置、全身麻酔装置等の医療機器整備と昭和49年に建設した東棟の外観塗装等の改修工事を行ったほか、起債償還を行いました。

なお、流動資産から流動負債を差し引いた内部留保額は21年度末で2,218万3千円となっています。

平成21年度病院事業会計(1年間)の状況

新規利用者数と訪問回数が増加し純利益が発生

新規の利用者数が前年度の47人から75人に増えたことにより、年間の延べ訪問回数が11.5%増の6,439回、利用者数や1人当たりの月平均利用回数なども前年度より増加しました。

収支では、収益合計が4,922万円、費用合計が4,551万9千円で1.4%増となり、差し引き370万1千円の純利益が発生しました。

これにより、年度末の利益剰余金の額は2,082万1千円となっています。

訪問看護ステーション事業会計

健全化判断比率・資金不足比率

健全化判断比率

区分	実質赤字比率	連結実質赤字比率	実質公債費比率	将来負担比率
平成21年度決算	—% (▲4.34%)	—% (▲10.41%)	14.2%	106.5%
県内平均			13.2%	93.0%
前年度決算	—%	—%	13.6%	125.0%
早期健全化基準	14.73%	19.73%	25.0%	350.0%
財政再生基準	20.00%	40.00%	35.0%	

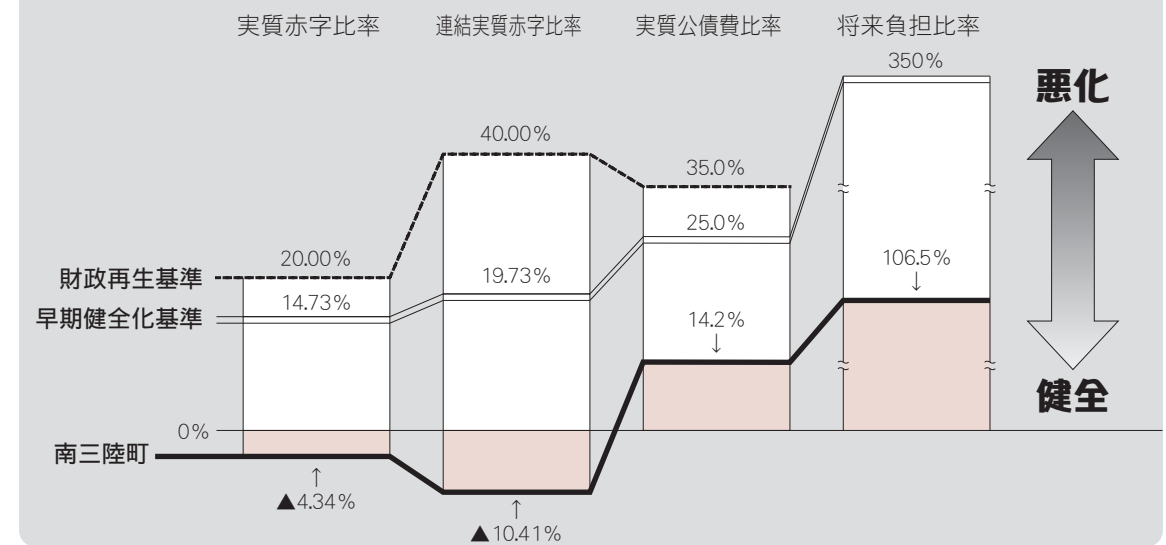
※赤字額がないため、実質赤字比率と連結実質赤字比率は「—(なし)」で表示し、黒字の数値を参考値として「▲」で表示しています。

資金不足比率

区分	資金不足比率	経営健全化基準
市場事業	—%	20.0%
漁業集落排水事業	—%	
公共下水道事業	—%	
水道事業	—%	
病院事業	—%	
訪問看護ステーション事業	—%	

※全会計で資金不足額がないため、資金不足比率は「—(なし)」と表示しています。

南三陸町の指標と早期健全化基準等との比較



■実質赤字比率

福祉、教育、まちづくり等を行う町の一般会計の赤字額を、標準的な収入と比較して指標化したもので、平成21年度も黒字決算となったことから、算定されていません。

■連結実質赤字比率

すべての会計の赤字や黒字を合算して、町全体の資金不足の程度を把握するため、標準的な収入との比較により指標化される比率ですが、全会計黒字決算となっていることから、算定されていません。

■実質公債費比率

標準的な収入に対する一般会計の実質的な借入金返済額割合を指標化したもので、合併特例債の元金償還の始まりや、公営企業の地方債償還の財源に充てられる繰入金の増加など、公債費に充てる一般財源の額が増加していることから、比率が増加していますが、早期健全化基準未満となっています。

■将来負担比率

借入金や将来支払っていく可能性のある負担等の残高を指標化し、将来財政を圧迫する可能性が高いかどうかを示します。平成21年度は、前年度より地方債の現在高や債務負担行為に基づく支出予定額等が減ったことなどから、比率は減少しており、早期健全化基準を大きく下回っています。

※標準的な収入(標準財政基準)→54億3,748万8千円(平成21年度)

借入金(町債・企業債)の状況

町では、公共施設を整備するために借入金などで資金を調達しています。一般会計では、防災行政無線や漁港などの整備に伴う借入のほか、一部借換などを行いましたが、地方交付税の不足分を補うための臨時財政対策債の借入額が4億1,000万円と、借換を除いた6億8,050万円のうち、60%を占めています。

会計全体では、年度末残高が160億7,851万9千円となり、前年度末残高から5億739万9千円減少しています。

区分	平成20年度末現在高	平成21年度借入額	平成21年度償還額	平成21年度末現在高
一般会計	109億7,852万8千円	7億8,629万6千円	9億8,693万円	107億7,789万4千円
市場事業特別会計	1億6,568万円	0円	1,215万2千円	1億5,352万8千円
漁業集落排水事業特別会計	1億3,158万3千円	0円	689万5千円	1億2,468万8千円
公共下水道事業特別会計	22億5,200万1千円	0円	8,769万8千円	21億6,430万3千円
水道事業会計	26億4,079万1千円	4,770万円	1億6,666万9千円	25億2,182万2千円
病院事業会計	4億1,733万5千円	1,410万円	9,515万1千円	3億3,628万4千円
合計	165億8,591万8千円	8億4,809万6千円	13億5,549万5千円	160億7,851万9千円